

12 初代駐仏特命全権公使・鮫島尚信

鮫島尚信（1844-1880）は、薩摩藩（現在の鹿児島県）の藩医の子として生まれました。長崎で医学と英語を学んだ鮫島は、1865年、薩摩藩遣英視察団に参加した留学生15名の一人として、ロンドン大学に一年間留学しました。その後アメリカで学び、1868年に帰国して明治政府に勤務しました。鮫島は、英国、フランス、プロシアの三か国に対する外交代表（当時の名称は弁務士）に任命され、1872年にパリに着任し、在任中に特命全権公使に昇任しました。鮫島は、日本人で初めてフランスに常駐した外交官です。



鮫島尚信（在仏日本国大使館）

1874年に帰国し、翌年には外務大輔（現在の外務次官）になり、1878年に再び特命全権公使としてパリに赴任しました。鮫島に課された重大な任務は、不平等条約の改正交渉を行うことでした。しかし、在任中の1880年に病に倒れ、36歳の若さでこの世を去りました。

日本の司法の近代化に貢献したボアソナードは、1873年に鮫島からの依頼で日本人留学生に法律学を教えたことが縁となって、同年にお雇い外国人として日本に赴きました。

鮫島は、公使館が雇っていたイギリス人弁護士フレデリック・マーシャルとともに、「Diplomatic Guide」（外交文法案内）を作成しました。これは、後進の日本人外交官のために外交の基礎知識をまとめた本で、公使館の権利、任命手続、外交特権、信任状のひな型、国際法、領事の職務等について記載されています。

短いながらも激動の外交官人生を送った鮫島は、パリのモンパルナス墓地で静かに眠っています。

掲載日：2022年2月1日